



TITLE:

我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其 發達(二)

AUTHOR(S):

銅直, 勇

CITATION:

銅直, 勇. 我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其發達(二). 經濟論叢 1918,
6(3): 384-390

ISSUE DATE:

1918-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127346>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第六卷 第三號

大正七年三月一日發行

論說

營業稅ノ課稅標準(一)……………法學博士 神戸 正雄

經濟的行爲ノ道德的行爲トノ關係(四)……………法學博士 田島 錦治

實質上ヨリ觀察セル植民地ノ分類……………法學士 山本美越 乃

大阪ニ於ケル舊時ノ鹽問屋……………法學士 本庄榮治 郎

露國ニ於ケルまゝるくす說ノ發達(一)……………文學士 米田庄太郎

社會學ト社會科學(三)……………文學士 高田 保馬

我國^{ニ於ケル}營利心ノ起源及發達(一)……………文學士 銅 直 勇

時事問題

取引所外ニ於ケル定期取引(二)……………法學博士 戸田 海市

勸業銀行ト農工銀行トノ問題(二)……………法學士 河田 嗣郎

雜錄

獨逸經濟學界近況(三)…………………………米田庄太郎

米國ノ戰時租稅法(一)…………………………在 米 阿部 賢一

米國ノ戰時海運政策(一)…………………………法學士 岸本熊太郎

社會批評家^ヲカ^ハあら^ハいる(三)……………文學士 石田 憲次

暴利取締令ノ適用ニ就テ……………法學博士 神戸 正雄

我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其發達 (二)

銅 直 勇

三 鎌倉時代ノ武士階級ト營利心

抑々武士階級ノ分化發達ノ歴史的過程ヲ明ニスルハ社會史上最モ興味アル而カモ又最モ複雑ナル問題ノ一ナリトス。吾人ハ今カカル問題ヲココニ闡明スルコト能ハズトイヘドモ、只前節述ベ來リシ財産慾及ビ貯蓄ノ習慣ノ發達ガ武士階級勃興ノ一因素トナレルコトヲイハントスルモノナリ。蓋シ彼ノ萬葉集ニ鳥がなく東をさして幸^{フキ}しに行かんと思へど由も實^{サチ}もなしト咏ヘル如ク、東國ガ夙ニ産金ノ地トシテ又未墾ノ曠野トシテ當時ノ貴族ノ財産慾ヲ刺戟シタルコト大ニ、平安朝ニ入リテ中央帝都ニ於テ志ヲ得ザル貴族ハ續々此等ノ地方ニ移リ住ミ以テ遂グラレザル慾望ノ満足ヲココニ求メタリ。而シテ其ノ土著ノ間彼等ハ漸ク富強ヲ得、以ツテ關東武士トシテ勢力ヲ振フニ至レリ。嘗ニ關東武士ノミナラズ蓄錢・貯蓄ノ習慣ガ官位陞進ヲ以ツテシテ朝廷ノ獎勵スル所トナリ、他方帝都ノ貴族ガ積年ノ浪費ノ爲メニ疲弊シテ賣官ノ風漸ク盛ナルヤ、諸國ノ富民多ク錢ヲ納レテ帳内・資人・舍人トナル。就中最モ多ク賣買セラレタルモノハ六衛府ノ舍人ニシテ、地方ノ富豪ト稱セラルルモノ多クハ此等帳内・資人・舍人ナリシトイヒ、^(一)而シテ又六衛府ノ舍人ナルモノ即チコレ諸國武士ナルヲ思フトキ、此等ノ武士ガ當時貴族ノ最モ賤メタル武官ノ末班ニ列

センガ爲メ或ハ其ノ家子郎黨ヲ扶持シ不時ノ軍費ニ供センガ爲メ、勤儉以ツテ貯蓄・開墾ニ從事シタルモノナルヲ知ラン。^(二)否彼等ニシテ節儉・貯蓄ノ觀念ナカリシトセバ恐ラク彼等ガンノ地位勢力ヲ維持保持スルコト未ダ始メヨリシテ期スベカラザリシナラン。

* 註一 三善清行封事 註二 吾妻鏡元暦元年十一月廿一日賴朝訓戒ノ條參照

蓋シ武士階級ノ有スル財産慾ハ彼ノ奈良朝及ビ平安朝ノ貴族階級ノソレト殆ンド異ル所ナシ。土地ト黃金ト等シク其ノ欲セシ所、然カモ其ノ生活ノ方途ニ至ツテハ二者著シキ相違アリ。貴族階級ニ於テハ其ノ收入ハ殆ンド其ノ支出ニヨツテ決セラレ、武士階級ニ於テハ其ノ收入以下ニ於テ生活スベシテフ生活思想ガ重要ナル規準トナリ來レリ。思フニ後世武士階級ノ一中心道德タリシ節儉ハ始メ只單ナル事實ニ外ナラザリシナリ。勿論コレヲ比較的ニイヘバ古ク平將門・亘理氏三代・平氏一門ノ如キ豪奢ノ生活ヲナシタル武士アリキ。然レドモコレヲ一般武士ノ生活ニ觀レバ彼等ハ其ノ多クハ農民ノ間ニ伍シテ自給自足ノ生活ヲ送リシ他方住人ノミ。而シテ此等武士ノ頭梁トシテ豐ナルモノモ猶其ノ所得若シクハ財産ヲ意ノ儘ニ用フルヲ得サリキ。何トナレバ彼等ハ其ノ多クノ郎黨ノ扶持ト軍資トニコレヲ支出セザルベカラザレバナリ。加フルニ彼等武士ト其ノ治下ノ人民トノ關係ハ從來朝廷ノ一地方官吏トシテ遷任スル國司、或ハ遠ク帝都ニ燕居シテ其ノ莊園耕田ノ農民ノ苦樂ヲ知ラザル貴族トノ間ニ於ケルガ如ク冷ナラズ。カカルガ故ニ彼等ハ其ノ際限ナキ支出ニヨツテ收入ヲ決スルガ如キ暴ラナスコト比較的ニ少ク、多クハコレ其ノ收入以下ニ於テ生活シ其ノ餘剩ヲ貯蓄スルノ必要アリキ。故ニ賴朝統一ノ後、彼等粗剛ノ武士ガ支配階級

トナリテ新ナル刺戟新ナル嗜慾ニ接シテ其ノ生活程度ノ漸ク高キニ至ラントスルニ方リ、コレガ統率者ハ常ニ節儉ヲ訓ヘテ己マザリキ。蓋シ節儉ニ得タル餘財ガ畢竟消費ノ爲メノ財ナルニ於テハ彼ノ平安貴族ノ財ト毫モ異ルコトナシ。シカモ彼ハ出ニヨツテ入ヲ計リ、此ハ入ニヨツテ出ヲ制セントス。我國民ハ奈良朝・平安朝ノ朝廷・貴族・官吏・僧侶・歸化人等ニヨツテ營利・貯蓄・勤勞ノ精神ヲ養成セラレ、今又武士階級ニヨツテ勤儉・貯蓄ノ習慣ハ一層ノ發達ヲ見ルニ至レリ。

四 商人ノ分化ト金錢至上思想

吾人ハ前章ニ於テ奈良朝以來貴族階級及ビ僧侶階級ニ猛烈ナル財産慾・營利衝動ノ發生シタルコトヲ述ベタリ。而シテ其ノ感化ガ次第ニ廣ク傳播シ、更ニ一方錢貨ノ流通ト蓄錢ノ獎勵トニヨリ既ニ奈良朝ノ頃ヨリ地方百姓中錢ヲ以ツテ其ノ財産トスル富豪ノ生ジタルコト、而シテ平安朝ニ及ビ此等富豪ガ功錢ニヨツテ官位ヲ得、終ニソガ武士階級勃興ノ一原因トナリシコト、及ビ其ノ蓄錢其ノ他ノ事情等ノ爲メ京畿ノ間ニ錢ノ流通ノ滯滯ヲ見ルニ至リシヲ知レリ。而カモコレガ爲メニ粗惡ナル鉛錢ガ發行セラルルニ及ビ經濟界ハ更ニ混亂ヲ生ジテ精良ナル宋錢ノ輸入ヲ促シ錢ノ流通額ハ更ニ増加シタルガ如シ。^{*}コレニヨツテ從來土地ノ測定方面積ヲ以ツテ稱セラレ其ノ收穫ガ稻何束ト數ヘラレシモノ鎌倉末期ニ及ンデ、轉シテ終ニ所謂貴高ナルモノヲ生ズルニ至レリ。稻・布ノ如キ貨物貨幣モ亦漸ク其ノ迹ヲ絶テ、布何疋トイヒシモノ今ヤ一變シテ錢何疋トイフニ其ノ迹ヲ留メタリ。

*「三貨圖彙」及ビ「經濟大辭書」日本貨幣史ノ項等參照

カクノ如クニシテ錢ノ流通ノ額及ビ廣域が一層大ナルニ及ビ土地以外更ニ錢貨ガ財産トセラルルコト漸ク多キヲ加フ。是ニ於テカ貯蓄ノ習慣ガ大ニ發達シ得ル社會的前提ヲ得、金錢慾ハ益々強烈ナラザルヲ得ズ。彼ノ弘長三年切錢停止ノ令ノ布告セラレ擇錢ノ風多ク行ノルルニ至レル、會々以ツテ當時ノ金錢感情ノ次第ニ銳敏トナリ來レルヲ謂スベシ。此ノ時ニ當リテ中央貴族ノ外更ニ武士ガ最モ有力ナル消費階級トシテ諸國ニ散在スルアリ、需要ハ一局部ヨリ廣ク諸地方ニ擴ガリ、商人ハ其ノ數ニ於テ其ノ富ニ於テ其ノ社會的勢力ニ於テ更ニ一段ノ發達ヲ見ルニ至レリ。舊ニ商人ノミナラズ此ノ時代ニ入リテ彼ノ金融業ガ朝廷・貴族・僧侶等ヨリ分化シテ土倉ナル特殊ノ機關ノ營ム所トナリ、商人・酒屋・土倉等ハ漸ク嵩ジ來ル武士ノ消費ト、從ツテ生ズル地方農民ノ窮迫トニ乘ジテ多大ノ利ヲ占メ、或ハ以ツテ武士ノ所領ヲ買得シ、或ハ以ツテ代官ノ地位ヲ獲取スルモノ^(二)珍シカラザルニ至ル。此時ニ方リ彼等ノ間ニ金錢ヲ以ツテ其ノ最後究竟ノ目的トナシ此ノ前ニハ天下何物ヲモ犧牲ニ供セントスル金錢至上思想ノ生ジ來レルコト亦怪シムニ足ラザルナリ。吾人ハ今コレガ淵由ヲ源ヌルニ當リ我國ニ於ケル商人ノ分化ニ就イテ尙一言スル所アラント欲ス。

抑々奈良朝ニ於テ商業ヲ營ムモノハ其ノ何レノ階級者タルヲ問ハズ、且又純然タル商業專業者ノ存スルコト猶極メテ少ク生産者同時ニ其ノ販賣者タルコト普通ナリキ。而シテ一定ノ店舗ヲ有シ商業ヲ專業トスル一ノ獨立ナル商人ガ社會上注意スベキ活動ヲナスニ至リシハ平安朝ナリトス。彼ノ京師ノ市塵ノ商人ニシテ王臣諸家ト本屬ノ關係ヲ結ビ以ツテ本來統攝セラルベキ市司ノ

論說

我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其發達(二)

第六卷 (第三號 八五) 三八七

註一 御成敗式目追加參照

註二 吾妻鏡・延應元年九月十一日ノ條參照

命ニ從ハズ相團結シテ官人ヲ凌辱シ自己ノ利ヲ圖ラントスルモノアルニ至ル。後世所謂坐ナルモノノ發達ノ根柢ガ既ニ業ニ此ノ時ニ於テ存シタルヲ注意スベシ。タダ吾人ハ此等商人ガ果シテ如

*註 貞觀六年九月四日太政官符慈照、特ニ「屬仕王臣家」及び「要結衆類」ノ二項ニ注意スベシ。

何ノ程度 商業精神ヲ有シタルカヲ明ニセズトイヘドモ、彼等ノ行動ガカカル團體的傾向ヲ帶ブルニ至レル、以ツテ其ノ營利心ノ漸ク強大ニ至レルヲ知ルベシ。而カモ平安朝ノ末ニ著サレタル彼ノ新猿樂記ヲ見ルニ、中ニ商人ノ主領ハ眞人ナルモノノコトヲ記シ、利ヲ重ンジテ妻子ヲ知ラズ、身ヲ念ヒテ他人ヲ顧ミズ、一ヲ持シテ萬ト成シ、埴ヲ搏ツテ金ト成ス、言ヲ以ツテ他ノ心ヲ誑キ謀ヲ以ツテ人ノ目ヲ拔クノ一物ナリトイヘリ。即チ知ル彼ニ於テハ財貨ハ既ニ手段タルニアラズシテ其ノ最後ノ目的タルナリ。財利ノ前ニ恩情ナク德義ナク、只々財ノ爲メニ財ヲ求メ、利ノ爲メニ利ヲコレ事トスルナリ。而シテカクノ如キ利慾ハ鎌倉時代以後金錢經濟ノ發達ト共ニ金錢至上思想ヲシテ漸ク盛ナラシムルニ至レリ。

蓋シ貴族階級・僧侶階級ニアリテモ武士階級ニアリテモ其ノ財産慾ハ等シク發達シタルモノナリキ。然レドモ彼等ニアリテハ財ハ竟ニ消費ノ爲メノ財ニ過ギザリキ。シカモ今ヤ商人及び金融業者ノ間ニ一種特異ノ金錢感情ヲ生ズルニ至リシナリ。シカシテカカル思想感情ハ彼ノ徒然草ニ於テ最モ明快ニ描キ出サレタリ。即チ曰ク、

或大福長者のいは、人は萬をさし置きて一向に徳得ノ意ナリをつくべきなり。貧しくては生けるかひなし、富めるのみを人とする。徳をつかんと思はばすべからくまづその心づかひを修行すべし。その心といふは他の事にあらず、人間常住の

思に住して假りにも無常を觀することなけれ、これ第一の用心なり。次に萬事の用をかなふべからず。人の世にある自他に
つけて所願無量なり。欲に従ひて志を遂げんと思はば百萬の錢ありといふとも暫も住すべからず。所願は止む時なし、財は
盡くる期あり。限ある財をもちて限なき願に従ふこと得べからず。所願心にきざす事あらば我を滅す惡念來れり、堅く慎み
おそれて小用をなすべからず。次に錢を奴の如くしてつかひ用ゐる物としらば長く貧苦を免るべからず。君のごとく神の
ごとき畏れたふとみて従へ用ゐることなけれ。次に恥に臨むといふとも怒り慙むことなけれ。次に正直にして約をかくす
べし。この義を守りて利を求めん人は富の來る事火の爆けるに就き水の下れるに従ふのごとくなるべし。錢積りて盡さざる
時は宴飲聲を事とせず、居所をかざらず、所願をなさざれども心ごしに安く樂しと申しき。

見ルベシ彼ノ猶太人の金錢思想ガ當時ノ富豪ノ間ニ行ハレ居ルコトヲ。富ハ實ニ最高至上ノ
價値ナリ。富アリテ、然リ只富ヲ有セリトイフノミニテ人生ハ忽チ無上ノ樂土ト現ズ。コレナク
ンバ生存ノ意義何レニカ求メン。淨土已ニ此岸ニ在リ、只金錢以ツテコレヲ購ヒ得、何ヲ以ツ
テカコレヲ棄テテ遠ク彼岸ニ求ムルヲナサン。宗教的信仰ハ實ニ此岸ニアル無上涅槃ニ入ル最大
ノ妨害者ナリ。金錢卽チコレ神佛ナリ。而シテ一度コノ金錢ヲ手ニス、努々コレヲ驅使スベカラ
ズ、自ラ之レニ奉仕スルコト恰モ奴隸ノ如クナルベシ。蓋シ人間ノ慾望ハ無限ニシテ一ヲ充セバ
一又從ツテ生ズ。如カズ金錢ヲ欲シテ飽クナキノ欲望以外一切ノ欲望ヲ厭離禁斷シ了ランニハ。
自ラ決心スルコトカクノ如クナランニハ苟モ人並ミニ世間並ミニナド斷ジテ思フベカラズ。恥ヲ
知ルハ實ニ營利貨殖ノ最大ノ害毒タリ。但シ營業上ニ於テハ必ズ正直ナレ約束ニ背ク勿レ。汝ノ
信用ハコレニヨツテ得ラレ汝ノ職業ハコレニヨツテ繁昌シ、カクテ汝ノ富ハ愈々増大スルニ至ラ
ント。凡ソカクノ如キモノ如上ノ思想ナリ。只此ノ如キ進歩シタル信用思想ガ當時ニ多ク行ハレ

居タリシヤ否ニ至ツテハ疑ナキコト能ハズ。コレヲ以ツテ更ニ吾人ハ右ノ全文ガ印度或ハ支那ノ書中ヨリ得タル竊案ニアラザルナキカヲ疑ヒ得ン。然リトイヘドモ其ノ是非ニ就イテハ今必ズシモ深ク究明スルヲ要セズ。何トナレバ一種ノ厭世家タル兼好ガココニコレヲ記ス、少クモ彼レガ時世ニ慨スル所アリテ然リシモノニシテ、當時我國ニ如上ノ金錢至上思想ガ行ハレ居タル一反映ト見ル亦決シテ不當ニアラザレバナリ。況ンヤカカル思想ガ既ニ平安朝ノ末ニ存シタルコト彼ノ新猿樂記ニヨツテ明證スルコトヲ得ルニ於テヲヤ。其ノ大福長者トイフ、或ハ當時ニ於テ勢力ヲフルヒツツアリシ貸上・土倉等ノ金融業者ノ類ナリシナランカ。其ノ錢貨即チ財産トナリ居ルコト亦注意スベシ。而シテ徒然草ガ後世廣ク行ハルルニ至リ如上ノ言説ガ世人ニ多クノ感銘ヲ與ヘタルコト、彼ノ徳川時代ノ多クノ町人心得書ニ假ニモ無常ヲ觀ズルコトナカルベキヲ誡メタルヲ以ツテ知ルベシ。徒然草ガ後世ニ及セル影響ニ就イテハ後ニマタイフ所アラン。(未完)